



学校評価アンケートの結果について

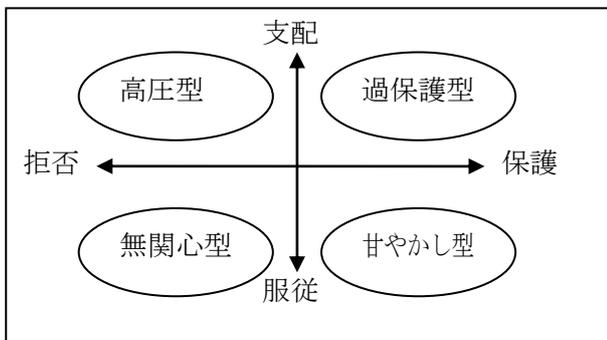
1学期に、児童、保護者、教員を対象に、学校評価アンケートを行いました。ご協力ありがとうございました。夏休みの期間に結果を取りまとめ、成果や課題について明らかにしました。結果や一部問い合わせのあった件についてのご返事は、近日中に、学びポケットやホームページで公開いたします。

学校評価アンケートは、保護者や地域の方と一緒に、よりよい学校を目指していくために実施しています。学校では、今回の結果をしっかりと受け止め、明らかになった成果や課題をもとに、今後の取り組みを確認し、課題については、具体的に改善をしていくことで、よりよい学校づくりに努めてまいります。

「危ない子育て」

夏休み中に、テレビでも時々見かける犯罪心理学者の出口保行さんが書いた「危ない子育て」という本を読みました。題名が目を引き、読んでみようと思いました。内容は、非行少年や犯罪者のことを話題にしているので、犯罪を扱った特別な本かというところ、そうではありません。敢えて非行や犯罪に結びついた養育態度の事例を取り上げることで、望ましい子育てについて考えようという内容の本です。子どもが非行や犯罪に走るのには、親の育て方にも原因があると述べています。ただ、同じような育て方をしても、すべてが非行や犯罪に結びつくものではないとも言っています。

この本では、「サイモンズ式分類」を用いていました。「サイモンズ式分類」では、親の養育態度を「支配」「服従」「保護」「拒否」に分類しています。そして、図の4つのブロックを「過保護型」「甘やかし型」「高圧型」「無関心型」とし、4つのタイプに分けていました。十字の中心が理想的な位置で



すが、現実にはそうはなりません。どの家庭も中心からずれ、4つのタイプのどこかにあてはまります。私も思い出してみると中心から少し右上に位置する「過保護型」でした。問題なのは、「支配が強すぎる」、「保護が強すぎる」など、上下左右に極端に振れてしまうことです。非行や犯罪に向かう子の親の育て方にはこの偏りが見られたそうです。

偏ることで、この4つのタイプには下に示したよ

うなマイナス面の心配が出てきます。

- 過保護型 (依存的で、自主性がなく、打たれ弱くなる)
- 甘やかし型 (共感性に乏しく、自己中心的になる)
- 高圧型 (自主的に何かを達成しようという意欲に乏しく、自己肯定感が低くなる)
- 無関心型 (被害感や疎外感が強く、自己肯定感が低くなる)

この本を読んで、思ったのは、親がよかれと思ってしたことでも、「支配」「服従」「保護」「拒否」の傾向が強くなってしまうと、子どものためにはならないということです。子どもの目線に立って、時々、冷静に自分の子育てを振り返ってみると良いかもしれません。十字の中心に近づけることが理想ですので、「保護」の傾向が強くなり、「最近、子どものことに手を出し過ぎている」と感じたら、「子どもに任せることを増やしていく」。「服従」の傾向が強くなっていると感じたら、「親の考えをしっかりと伝えていく」と意識して、接し方を変えていくことでバランスが取れるのではないのでしょうか。

子育てには、正解はありません。だからこそ、悩むことも多いと思います。この本を読んで、子育てについて振り返るときに、この4つの視点は参考になると思いました。